

活動紹介！こんなことしちゃってます編！

上島町の皆さま、こんにちは。JICA日系社会青年ボランティア・ブラジル派遣の堀本梓織です。

最近、サンパウロでは夏時間が始まり、少しづつ夏が近づいてくるのを感じます。上島町はいかがでしょうか。

現在、私は「イタペチ」という日本人の移住地にある日本語学校で、日本語や文化などを子どもたちに教えています。今回は、普通の学校では行わないであろう少し変わった活動を紹介しようと思います。

まず1つめが「お泊り家庭訪問」です。これは、「家庭訪問してそのまま泊らせてもらおう！」というものです。初めは、生徒の家だし、父兄と何を話せばよいのかわからないし、生活環境も異なるし、すぐドキドキしました。けれど、それも最初だけで、皆自然に、そして喜んで受け入れてくれました。子どもたちも学校とは違う顔を見せてくれるし、普段ゆっくり話す機会がない父兄との時間もとれ、とても貴重な時間となっています。そして、美味しいご飯というオマケ付で、よいことづくしです。

次に「土曜学級」です。1カ月に1回、日本語学校の生徒全員で、様々なことに挑戦しています。今まで、おにぎり作りやオセロの駒作り、絵画教室を行いました。3歳から15歳の子が一堂に集まるので、戦場みたいになっていきますし、終わった後はぐったりしています。でも、それでも子どもたちが夢中で取り組んでいる姿を見ると、「来月は何をしようかな」と嫌でも思っています。



おにぎり作り。
お米を研ぐのも、おにぎりを作るのも初めて!!



お泊りでの一コマ。
チョコフォンデュも一緒に出来ます (笑)

しまいます。

次に「移民学習」です。「日本人の顔をした自分が、どうしてブラジルにいるのか」ということを考えるキツカケ作りとして始めました。皆さんは、自分の祖先、祖父母のことをどのくらい知っていますか。恥ずかしながら、私は詳しくは知りません。日系人も同じように祖先のことを知らないのです。日本から遠く離れたブラジルに移住した時のことも、荒れ地を開拓した時のことも、今の生活を手に入れるまでの道のりも知らないのです。それはすごく勿体ないことだと思うし、又大きくなって聞こうと思った時に聞けず後悔しないで欲しいと思い、始めました。今はまだまだゴールまでは遠いですが、自分のことや祖先のことを自分の耳で聞き、自分の頭で考え、自分の心で感じる手助けをしていきたいです。このように、日系の日本語学校だからこその出来る様々な活動を通し、移住地や移住地に住む人々、子どもたちを身近に感じています。今は12月の終業式に向け、毎日慌ただしく過ごしています。任期も後8カ月になりました。このまま、前を見て走りぬけたいと思います。

《堀本梓織 プロフィール》2009年日本語教師養成講座修了。海外にある日系社会との中で受け継がれている継承日本語教育に興味を持ち、2010年からJICA日系社会青年ボランティアでブラジルに。日々の生活を綴ったブログ「ITAPETI日記」<http://ameblo.jp/2010j28/>も更新中。

こんにちは 町長です

昨年の十二月四日から七日にかけて、念願の長崎県の離島、宇久町と小値賀町に行ってきました。午後十一時半、博多発のフェリーで船中泊、



早朝の四時十分に宇久島に着き、迎えてくれた観光協会の猪鼻さんの案内により、一時休憩の後、町づくりの説明を平山観光協会会長から受けました。人口が十一人の島にも渡り川口区長さんからも離島の窮状を聞かせていただき、佐世保市という大きな町と合併した小さな島への配慮の重要性を改めて感じました。夕食は会長宅に招かれ、捕鯨の伝統からの鯨肉や手作りの料理で歓待を受けましたが、何よりも感動したのは宇久島の祝唄を私の名前を入れるなどして、太鼓に合わせ皆さんが唄ってくれたことです。

小値賀町の西町長や総務課中野さんにも大変お世話になり、古民家の活用や交流の仕掛けなど、上島町の今後の政策に大変参考になることを教えていただきました。船に乗る直前に受け取った袋には、中野さんから島に来てくれた事への自筆のお礼の手紙がありました。

帰りの船は再度宇久島に寄るルートでしたが、そこには観光協会や役場の方々が横断幕やテープを持ってわざわざ見送りに来てくれました。いくつかの面においては、上島町の方が進んでいましたが、おもてなしの面では学ぶことばかりでした。感謝。
上島町長
上村俊之